

アレキサンドリアからの手紙 ③

(E-JUST : Egypt-Japan University of Science and Technology)

大阪大学大学院工学研究科
電気電子情報工学専攻教授

河崎 善一郎

5. ラマダン (断食月)

テクノネット愛読者の諸先輩・後輩諸君とは、すっかり御無沙汰です。我が阪大工学部の同窓会誌であるテクノネットは季刊ですから、どうしても3ヶ月ぶりの御無沙汰となってしまいます。そして今回も気がつけば8月も下旬を迎え、「祖国日本ではそろそろ朝夕が涼くなっている頃かなあ」なんぞと、少しだけ里心を感じる今日この頃です。ただこの文を読んで頂くのは、多分2ヶ月程度先のことでしょうから、愛読者の皆様は実りの秋を迎えているに違いありませんね。

さて今日の話、イスラム教のラマダン (断食月) についてです。

物の本によりますと、ラマダン (断食月) はイスラム暦の第9番目の月にあたるそうです。そのイスラム暦は太陰暦で、おまけに閏月を考慮しないため、ラマダンの開始は毎年11日ずつ早くなるそうです。毎年11日早くなるということは、太陽暦に焼き直しますと単純に計算して、33年で一周することになり、人生60数年としても生涯で2度同じ月のラマダンを経験することになります。

何故こんなことから書き始めたかと申し上げます

と、今年2011年のラマダンは8月1日に始まり29日に終わりますので、まさに真夏の断食月で、「一番きついラマダンとされている」と聞かされた事によっています。真夏の日中、食事はともかく水一滴も飲まないというのは、確かにちょっとした難行苦行と言えそうです。イスラムの友人達は、生涯で一番きついであろう断食月を耐えているのです。

ところでこの断食月、私達日本人にとって馴染みのない習慣ですから、「1ヶ月間も食事をしないのか? そんな事が可能なのか?」と考えられるかもしれません。実は彼らが食事をしない、つまり断食するのは、日の出から日の入りまでのことで、日の入り後は逆に大いに食事を楽しむそうです。もしかしたら、日没後の楽しい食事のために、日中断食しているのかもと言えそうです。そこでそんな私の印象を証拠づける写真2枚お届けします。ラマダンの準備で混雑するスーパーマーケット、我が国の年末買い出し風景と相通ずるところがあります。私の友人など、ラマダンに入ると買い物好きになり、必要以上に買ってしまいがちと告白してくれる程なのです。

これもまたエジプト人の友人に聞いた話ですが、日



ラマダンの大売り出しに並ぶ店員達



ラマダンの買い物風景

没後の食事を楽しんだ後、街に繰り出してアイスクリームやケーキを食べたりもするそうです。それどころか随分遅い時間まで、街中を闊歩しているとのこと。そして家に帰って日の出前の食事の準備をし、今年の場合午前3時頃、その食事を頂いて仮眠しながら日の出を待つそうです。この様に聞かされると、イスラム教の信者には申し訳ありませんが、断食とは名ばかりで、昼夜の役割を入れ替えただけと考える事が出来るのかも知れません。いやはや、お国代わればといったところでしょうか。

この断食月になって、一つ成程と教えられたことがあります。それは英語の Breakfast についてです。今更調べるべくもないでしょうが、この単語を英和辞典で調べてみますと「朝食」という意味が出てきます。ただよくよくその辞書を読んで頂くと、「一日の内の最初に食べる食事。本来 fast (断食) を break (やめる) するの意味から、前の晩の supper (夕食、夜食) 以後、何も食べずに朝になって初めてとる食事の事から」と書いてあります。それでここエジプト・アレキサンドリアでは、夜明けの食事から日中は原則断食で、日没後の初めての食事となる夕食を、彼らは Breakfast と呼んでいます。文字通り断食をやめる食事なのです。教えられたとは、私達にとっての夕食を、Breakfast と呼ぶのは、先に述べた様な意味があつてのことです。とはいえ夜明け前の食事を Dinner もしくは supper と呼ぶのかどうかを確かめたことはありませんが、Breakfast の本来の意味を正しく使っている彼らに敬服したくなります。

ラマダン (断食月) に関して、もう一つ面白い話があります。実はこの原稿を書いている前の週、出張でトルコ・イスタンブールに行っていました。トルコはアラブ系の民族ではありませんが、イスラム文化圏の一国です。ですから当然「ラマダン」の最中なのですが、「いまはラマダンで大変でしょう!？」と街の人に聞いても、キョトンとしています。何度か説明すると漸く納得してくれて、「ああ、ラマザーンの事か」と、意思の疎通ができました。

不思議に思った私は、アレキサンドリアに戻ってきて調べてみましたところ、「アラブ圏でいうラマダンは、トルコやイラン、イラクのペルシャ語圏ではダの発音が難しくラマザーンと発音する」事が判りました。

話は変わりますが、和歌山県紀ノ川水系は、ザとダの区別が付き難い方言を話すとされています。さらに和歌山県全体でダとラが曖昧な使われ方をするとといった話もあります。例えば、絶対が「でったい」であったり身体が「かだら」であったりするのです。ちょっと古いネタですが、落語や漫才で「よろ (淀) 川のみる (水)」といったギャクもあつたりする程です。ですから「ラマザーン」と聞いて、和歌山県の先輩には恐縮ながら「トルコは、地中海の和歌山県か!」と思つた次第です。

ラマダンの話がとんだところで落ちてしまったようで、きざっぽい言いながら比較文化論の一節とご理解下されば幸いです。

(通信 昭和48年卒 50年修士 53年博士)